



# イベントカレンダー



月	イベント	彦根城博物館 テーマ展・企画展など
7月	<p><b>10日</b> 開幕式典</p> <p>天秤櫓特別展 いいね！直弼展 (～9月27日(日))</p> <p><b>10日</b> 開国記念館展示 NAOSUKE 直弼 なおすけ - 近現代の中の井伊直弼 -</p>	<p><b>10日</b> 井伊直弼のことば - 手紙にあらわれた人柄 - (～8月18日(火))</p>
8月		<p><b>21日</b> 忠義の人 遠城謙道 - 主君直弼への思いと禅画 - (～9月15日(火))</p>
9月	<p><b>18日</b> 佐和口多聞櫓特別展 (～12月23日(水・祝))</p> <p>彦根城能舞台 ワークショップ 「能舞台の空間とは何か」 林望(国文学者)が案内する能のおもしろさ</p>	<p><b>18日</b> 一期一会の世界 大名茶人井伊直弼のすべて (～10月20日(火))</p> <p><b>22日</b> 第49回彦根城能</p>
10月	<p><b>12日</b> 直弼絵本プロジェクト 「いいね！なおすけ」</p> <p><b>24日</b> 大名茶会・花展・夜祭 (～10月25日(日))</p>	<p><b>23日</b> 学びの人 井伊直弼 (～11月24日(火))</p>
11月	<p><b>29日</b> 生誕記念イベント「彦根城流鏑馬」</p>	<p><b>1日</b> 錦秋狂言の集い</p> <p><b>27日</b> 井伊直弼の甲冑と刀剣 (～12月23日(水・祝))</p>
12月	<p><b>23日</b> 閉幕式典</p>	<p>その他にも多数のイベントを開催します。 詳しくは公式WEBサイト (<a href="http://naosuke-200th.com">http://naosuke-200th.com</a>) を確認してください。</p>

## 強い彦根へ

彦根市長 大久保 貴

昨年、井伊家歴代の内、直弼公を含む6代の藩主のお墓がある東京世田谷の豪徳寺をお参りしたときのことです。墓前に向かうと、一人の若者が入れ替わりに帰って行きました。ご住職によると、直弼公の墓前にお参りをされる人が絶えることがないとのことでした。

また、彦根藩の飛び地であった栃木県佐野市の天応寺にも、直弼公を含む3代の藩主が祭られています。ご住職からは、歴代藩主の中でも特に直弼公は領民の信望厚く、今もなお住民の皆さんが親しみを持って語られているとお聞きしました。

安政の大獄で命を落とした彼の吉田松陰も、領主としての直弼公を賞賛していたそうです。

直弼公生誕200年祭を通して、故郷の偉人を身近な手本として学び、市民の皆さんと共に強い彦根創りに邁進してまいります。

# 2000年祭開幕

開幕を彩るイベント

### 開幕式典

場所 彦根城博物館能舞台  
井伊直弼公生誕2000年祭のオープニングとして開催する開幕式典では、和楽器のみで構成される音楽ユニット「AUN J-CLASSIC ORCHESTRA」記念コンサートを行います。伝統と革新を高いレベルで両立させたパフォーマンスをお楽しみください。



▲ AUN J-CLASSIC ORCHESTRA (アウン ジェイ クラシック オーケストラ)

### 天秤櫓特別展 「いいね！直弼展」

彦根城内の重要文化財天秤櫓で、直弼の生涯や文化人としての魅力をパネルや3Dシアターなどで紹介する特別展を開催します。子どもから大人まで、皆さんで楽しめる展示です。



▲ 天秤櫓特別展イメージ図



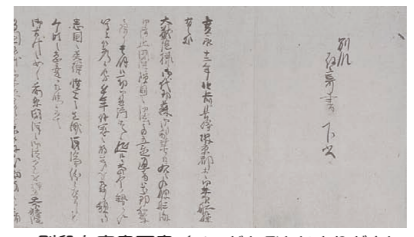
## 井伊直弼公生誕2000年祭 2015年7月10日～12月23日

## 直弼のころ

生誕2000年。全5回の展覧会から、その人物像を探ります。

### テーマ展

井伊直弼のことば 手紙にあらわれた人柄



▲ 別段存寄書下書(べつだんぞんじよりがきしたぎ) (冒頭)

### 企画展

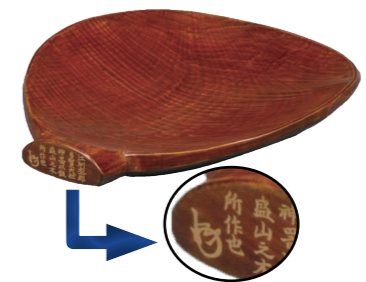
忠義の人 遠城謙道 主君直弼への思いと禅画



▶ 画賛 遠城謙道筆 個人蔵

### 特別展

一期一会の世界 大名茶人井伊直弼のすべて



▲ 多賀大社杓子形菓子器(たがたいしゃくしがたかき) 井伊直弼作

### 学びの人 井伊直弼

居合刀 井伊直弼所用

### テーマ展 井伊直弼の甲冑と刀剣



▶ 朱漆塗紅糸威縫延腰取二枚胸具足(しゅうしほりへにいしおとこしほりふたまいむすぶた) 井伊直弼所用

### 井伊直弼公生誕2000年祭公式ロゴマーク デザインコンセプト



井伊家の井桁紋の上に、直弼の花押(サイン)をデザインしました。この花押は、しなやかさと強さを兼ね備えた

「柳」の字を模しており、井桁の上に躍動感を持って大胆に重ねることで、激動の時代に立ち向かった直弼の強さと大きさを表現しています。